

夢を解くひと

木口人

登場人物

國保 守こくほ まもる

売れない劇作家

蔵津 織人くづつ おりと

國保の高校同期。エリートサラリーマン

三上 咲都美みかみ さとみ

國保の高校同期。女優

童子 大夢どうじ ひろむ

三上の前に現れる謎の男

曳野 槇太朗ひきの しんたろう

國保の高校同期。研究者

夢解きの女ゆめと おんな

夢を占う女

夢と鷹は合わせがら

開演前

○ある秋の夜 國保守の部屋

舞台には黒などの暗色を基調とした舞台装置が並べられている。それらは、箱であっても、階段であっても、あるいはそのいずれかでなくてもよい。抽象劇を行うにあたり必要最低限の装置が並べられている。

國保

ドアの開く音。男が入ってくる。國保守である。
國保、舞台上で箱に腰掛け、少しため息をついた後、ラップトップを開く。
國保、台本を書く。しかし、苦しそう。少しして、部屋の中を歩く。

國保守の部屋であるからか、壁には演劇の公演チラシがいくつも貼ってある。

ひとつひとつのチラシを眺める。

開場中、音楽が流れ続けており、ときおり、運営係が諸注意を行う。

國保

いやー。……もう出てこないなあ。(スマホを見つつ少し考え) うん。

◇ ◇ ◇

何かを決意したのか、ラップトップに向かう。

國保

あれから十年。……十年かあ。

開演時間になると流れていた音楽が止まる。そして、舞台上の照明が少し変化する。

台本を書き進める。暗転。

少し間。

物語がはじまる。

其ノ巻

○ある秋の夜 ある道

明転。國保、ひとり立つ。國保の周りには様々な人。

人々、フードのようなものを着ていて、顔はよく見えない。
以降の章でも同様。

人1 國保君、急で悪いんだけど明日さー。

人2 いい加減、ちゃんとしたほうがいいと思うよ。

人3 うーん、今回のホン、イメージと違うな。なんか普通ってか。

人4 いやーやっぱ社会人はつらいわー。時間ほしー。

國保、一人歩いていた。

國保 ただ、続けてきた。

声はとまらない。

人1 あー大丈夫？ いつも悪いね。あ、来週の水曜俺いないけど、

他のバイトの面倒お願いねー。

人2 この間、コウキ君ママとすれ違ったんだけど、もう二人目で

きたらしいよ。いや、ね、すぐ結婚しろとは言わないけど。

人3 今回はコメディを書いてほしかったし、声かけてる役者もそ

っち系の方が合ってるから。書き直すのは大変だと思うけど。

人4 え、みんな投資とか実際どうしてる？ もう円に未来ないか

ーってよく話に上がるけどさー。

國保 これがやりたいことだって、思ってきたから。

声はいつからか混ざり合い、よく聞き取れなくなる。

人1 いやー國保君、ずっと頑張ってくれてて助かるけど、まあ、

うちあんまり余裕ないからさ、社員には……。あ、そうなの？

人2 え、それ将来大丈夫なの？ そろそろもう若くないでしょ。

人3 だってもうあなたの同級生社会人何年目よ。会社に年金払っ

てもらった方が老後だってお得でしょ？ 私たち、あんまり

遺産は残せないよ？ 普通じゃないし。

人3 じゃあ、来週までにざっくりプロットお願いします。あと、

いやまあお互い大変だから言いたくないけど、今回は公演費、

ちゃんと早めに払ってね。

人4 まだ気が早いけど、ここらへんっていい学校行こうと思った

ら私立になりがちだからさ、絶対お金あった方がいいよね。

國保 だって、ユカとかもう小学校受験させる気満々なんでしょ？

ふとしたときに、あの頃を振り返った。なにが残ったのか、

人2 わからなくなった。怖くなってあたりを見渡した。見覚えの

ない鉄塔を見つけた。聞き覚えのない言語が飛び交っていた。

夜なのに、太陽が昇っていた。

國保、歩くのをやめて振り返る。

國保 夢かと思つて、いや、いつそ本当にこんな生活、夢ならいいのにと思つて、興味なんてない占いに足を運んだ。

國保、占いの館に入る。

○夜 占いの館

占いの師の女がいる。夢占いの専門の、夢解きさんと呼ばれているらしい。なんとなく、現実離れた雰囲気。

夢解き なるほど、だいたいわかりました。

國保 はい。でも、なんか、夢っていうか、ここに来る前に見た気もしてて……。

夢解き 寝ぼけているのか、幻でも見たのか。まあ、いいでしょう。……鉄塔は、おそらく電波塔でしょう。何かしらの情報が世界中に広がることを暗示しています。知らない言語が出てきたのもそうでしょう。日本の外側へと広がっていきます。

國保 え、そんな、世界と仕事するんですか？ 僕、ただの劇作家なんですけど……。海外公演とか？

夢解き いや、それはないでしょう。でも、もつと大きな何か、動こうとしている。

國保 はあ……。あ、最後のやつは？

夢解き 夜なのに太陽が見えているのは、世界の秩序の崩壊。世界とは、いわゆる普通の、地球を中心とした物質的世界ではなく、あなたの目にするあなたから見た世界。

國保 僕の身の回りってことですか？

夢解き いえ。あなたの見る、聞く、感じる世界です。だからこれは、あなたの秩序の崩壊。……信念、価値観、あるいはそれ以外、あなたを構成する何かに大きな変化が訪れる。

國保 ……よくわからないけど、明るい未来は見えないですね。

夢解き 暗いとも限りませんよ。何かが起こる、それは間違いない。

國保 ……はい。ちなみに、もうちよつと具体的な感じの……？

夢解き そっちのほうがよかったですか？

國保 できるんですか。

夢解き はい。あなたが夢を口にして、私がそれを解く。そしてその

國保 解釈は、もう避けられない現実となる。それでいいのなら。

夢解き え。解釈って、そんな未来を変える系の感じなんですか。

國保 夢と鷹は合わせがら。昔は、本当に夢を解くのを生業にして

夢解き いる人がいたんですよ。誰かが夢をみる、私たちがそれを解

く。たったこれだけで未来が決まる。だから、貴族は夢解き

を雇いました。素人の変な解釈に頼れば、不幸な未来が訪れ

てしまうから。

國保 まあ、そういう話ありますよね。創世記とか。

夢解き よくご存じで。しかし、夢を信じる時代は終わってしまった。

國保 夢の解釈は、占い程度にその力を弱めてしまいました。

夢解き まあ、普通に占いですよね。

國保 でも、私は本当の夢解き。この現代でも、本物の解釈を差し

夢解き 上げられます。どうしますか。

問。

國保 いや、やめておきます。だって、怖い解釈になったら、もう戻れないんですよ。

夢解き 賢明です。決まった未来を生きるなんて普通は嫌ですから。まあ、そうですね。……じゃあ、ありがとうございます。

夢解き (と、帰ろうとする。)
お気をつけて。國保守さん。

國保、少し驚き足を止める。

國保 あれ、名前って……。

夢解き 私はあなたのことを知ってますよ。ずっと前から。

國保 ……会ったことあります？

夢解き さあ。でも、あなたはこれから嫌でも夢と関わることになる。どういうことですか。

夢解き 十年前、あなたは吉夢を、すなわち成功するはずだったその後の人生を奪われたんですよ。

問。

國保 奪われた？

夢解き 他人のみた夢をそのまま口にして、それを解釈してもらえば暗示する未来を奪うことができる。これが夢の、もうひとつの怖いところ。

國保 そんな簡単に。

夢解き あなたはそうして、あるはずだった人生を奪われた。空っぽ

になったあなたは、取り憑かれたように架空の人生を描き続けた。この十年間、劇作家として。

國保 え。いや、奪われたとか、よくわかんないですけど。でも、脚本は、やりたかったから。

夢解き あなたは演技も好きだった。それに、勉強だって好きでしたね。色々やりたいことはあったはずなのに、いつからか裏方に徹して脚本だけを書き続けた。それは、どうして？

國保 いや、本当に、やりたいと思ってやってますよ。

夢解き それも本当でしょう。でも、あなたきつと対峙することにな

國保 十年前で友人……。え、高校の。

夢解き ええ。(と、少し歩き) あなたは見つけられるでしょうか。とられちまった夢の話を。

と、夢解き、舞台中央に立つて前を向く。

どこから出したのか、その手には巻物のようなもの。巻物を広げると、『Thursday 第三回公演』の文字。

夢解き はじまり。

『夢を解くひと』と、タイトルが夢解きの背後に映し出される。OP。場転。

其ノ弐

○夜 蔵津の家

舞台には國保がいる。そこに、蔵津織人と曳野槇太朗が入ってくる。蔵津は仕事のできそうな雰囲気のない普段着を着ていて、首にワイヤレスヘッドホンをつけている。曳野は割と普通のラフな感じの服を着ている。蔵津は、コンサル業界で働くエリートで、曳野は若手研究者である。

「ひさしぶりー」などの挨拶を済ませ、飲み会が始まる。

曳野 人の夢を奪えるねえ。

蔵津 未来奪うって、その後の人生、全部ルールに乗れるってことなのかね。あるいは単に、あなたは成功します！ とお墨付きをもらえるだけなのか。

國保 まあよくわかんないよな。てか、あんなところに占いあったって思ってたし。でも、その、まあ、事件があったの十年前らしいし、夢奪ったのはお前らのどっちかかなって。

曳野 失礼な。他にいるかもしれないだろ。

蔵津 そもそも、俺らの人生も結構大変なのよ？

國保 ま、そうだよな。てか、仮にそうだったとして、俺が曳野みたいに研究者になってたり、蔵津みたいにコンサルになってたかもしんないってことでしょ。イメージつかんない。

蔵津 演劇やめた國保、想像つかんけどな。

國保

曳野

國保

曳野

蔵津

國保

蔵津

曳野

蔵津

國保

蔵津

國保

曳野

蔵津

曳野

國保

曳野

國保

曳野

蔵津

國保

そうか？

次の話は決まってるの。

いや、もうずっとネタ切れだなあ。最近全然。パソコン開いてないわ。

やばいじゃん。

ま、まだ演劇続けてるだけで尊敬っす。

いやー、まだ足洗えてないだけです。お金ください。

僕もないです。

嘘つけ。

天下の回り物ですから、懐から流れまくりです。

こっちに流れてくんないかなあ。

ちよくちよく観に行ってるだろ。新作、頑張ってる。

書かなきゃなあ。

新しいもの生んで、しかもそれを売り込むのは大変だよな。

出た。プロフェッサー。

助教授だ。しかも俺は一年契約だ。

え、契約社員のな感じ？

まあ、研究者ってそんなもんだよ。

世知辛いなあ。

やっぱ、いいとこのサラリーマンが最強。

金を労働時間を買ってんだよ。まあでも、みんな色々大変だろ。結局、周りで成功した人は……いやあ、三上だなあ。いや、夢奪ったの、絶対三上じゃん。

あー、いやいや、ないでしょ。そうだったら俺、俳優デビューしちゃうし。

蔵津 俺らの中からまじの女優が出てくるのがそもそもありえないだろ。

國保 や、そうだけど……。てか、三上はもう会わないなあ。

蔵津 いやー、会えないでしょ。もう世界違う感が。

國保 一応、俺も芸能関係のはずなのに、こいつも恐れ多くなるとは。

曳野 え、連絡すればいいじゃん（と、スマホを出す）。

蔵津 連絡取ってるの？

曳野 いや、売れてからは取ってない。

蔵津 え。

曳野 まあ大丈夫っしょ。

蔵津 いやいやいや。やばいでしょ。

曳野 なんで？ 友達だろ？

蔵津 え、やばいよな？

國保 やばい。

曳野 そうか（と、スマホをしまう）。

蔵津 あーでも、三上と繋がってたら、かわいい子いっぱい紹介してもらえたなー。

國保 （笑って） そうかな。

蔵津 あー、出会いがないかな。

國保 ないの？

蔵津 ないよ。もう合コンかアプリばっか。こういうことに関しては國保の生き方がうらやましいわ。

國保 まあ、そうなのかな。

蔵津 あー、なんか、色々昔話したくなってきたな。お前ら明日休みだろ？ うち泊まって、今日は飲もうぜ。

飲み会は続く。時間は流れ、蔵津の家で全員眠りにつく。

○夜 蔵津の夢の中

蔵津がひとり、舞台上に立っている。他の二人は寝ている。

蔵津 どうやら明晰夢らしい。國保のやつが変な話するから、俺まで夢に取り憑かれたみたいだ。（と、少し歩いてみせる）夢だとわかれば何でもできる。金が欲しい！

札束が飛んでくる。

蔵津 休みが欲しい！

声(N) 今年のGWは28連休です。

蔵津 でっけえ家が欲しいな！

映像。Googleマップのある敷地がでかく「蔵津織人の家」と表示される。蔵津、満足気である。

蔵津 叶えたいことは山ほどある。欲は尽きない。当たり前だろ。國保の言葉を思い出してみる。俺にも、別の人生があったかもしれない。例えば、高校同期。

蔵津の後ろに國保と曳野が立つ。國保は台本をもつ。曳野はアカデミックガウンの帽子をかぶる。

二人、蔵津の話の間に、自身の持っているアイテムを蔵津に渡していく。

蔵津

（國保から手渡された台本を持ちながら）俺にとつて演劇は部活だ。今はもう観るだけで充分。（國保に台本を渡し、曳野から帽子を受け取る）勉強だって、頑張ったのは就職のためで、追究したいものなんて何もない。毎日働いてれば、もうあつ晴れだ。（曳野に帽子を渡し、どこから取り出したサングラスをかける）三上は売れたけど、俳優なんて一番あり得ない有名になったって、いいことなんか一つもないだろ。かわいい子に出会えそうなのは魅力的だけど（サングラスを外す）。

二人、蔵津の周りを歩く。

蔵津

他人の人生は輝いて見える。でも、同じくらいしんどそうにも見える。だから、俺は自分の人生に納得する。満足しないままでも。今日もやっぱり働いて、週末を待ち望む。

二人、蔵津の周りから離れ、蔵津も後ろを向く。

國保以外の動きが止まる。國保、夢の中で目を覚ます。

國保

蔵津の夢……？

夢解き

そう。ここは蔵津織人の夢の中。

と、夢解きが現れる。國保、すしし警戒。

夢解き

やっぱり、あなたは夢を旅することになった。

國保

人の夢に入れるって、どういうことですか。

夢解き

この通りです。同じ部屋にいた人の夢なんだから、まだわかりやすいですよ。

國保

距離の問題なんですか。

夢解き

さあ。

國保

みんな、夢の中に入れるように？

夢解き

今は、あなただけみたいですよ。

國保

どうして。

夢解き

結局、どれだけ多くの人がこの物語を信じるか、なんですよ。

國保

（弱い相槌しか返せない）

夢解き、蔵津のほうを向く。

夢解き

蔵津さんは、他者へと変身する夢をみました。國保さん、あなたならこの夢、どう解きますか？

國保

え、どう解くって……。

夢解き

これは、何の兆しでしょう。

國保

（考えながら）他人になるってことは、他人を求めている。多くの人に出会いたい。そんな未来を望む兆しでしょう。（ふと思いつき）じゃ、いっぱい合コンに行けるんじゃないですか？

と、國保が言い終わると、場の雰囲気少し変わる。

夢解き 未来が変わりましたね。あなたの言う通り、蔵津さんは様々な出会いをするでしょう。

國保 おお、よかった。

夢解き ただ、裏を返せば、合コンに通い続けるということですから、なかなかいい人に出会えない、ということになりますけどね。

間。

國保 悪いことしちゃったなあ。

場転。

其ノ参

○昼 夢解きの館

夢解きが座っている。

そこに女が入ってくる。三上咲都美である。三上、女優らしくシンプルながらおしゃれな服を着ている。先ほど蔵津が使用していたものと同じサングラスをかけて入ってくるが、夢解きに話しかけるタイミングで、サングラスを外す。また、イヤホンも外す。案外礼儀正しいのかもしれない。

三上

あの。

夢解き

はい、いらっしやいませ。

三上

ここって、夢専門の占いなんですよね。

夢解き

そうですよ。

三上

なんか、変な夢みて。

夢解き

聞きましょう。私は夢解き。あなたの夢が暗示する未来を解釈するもの。もしあなたが吉夢を見たのなら、それでいい。あなたが悪夢を見たのなら、不吉な未来を回避できるような工夫した解釈を差し上げましょう。

三上

なんか、はじめはよくある感じの嫌な夢だったんです。橋が崩れて落っこちるとか、何かに追われているとか。でも、最近、それが仕事に関係する失敗の夢みたいな感じになってきて、しかも、なんか、リアリティある感じになってきて。

夢解き

(少し思索し) 夢の解釈を間違えてしまった。そうですか？

三上

え、あ、はい。なんか、普通に悪い夢見て、それをマネージヤーに話したら、なんか、もっとひどくなって。

夢解き

解釈を間違えてしまったら、その未来を受け入れるしかありません。解決策があるとなれば、あなたが新しい夢をみて、その解釈でもって、今の未来を書き換える。それしかない。(少し考え) すみません、今はなくて。

三上

夢をみたら、またいらしてください。ところで、そのマネージャーさんは、最近会ってますか？

三上

え、いや連絡は来てますけど、最近会ってないですね。そうですか。また、会えるといいですね。

三上

え？

夢解き

次こそいい解釈をしてもらいましょう。ああ、はい。

三上

はい。それでは。

夢解き

三上、夢解きの館を去る。夢解きは、何やら独り言をつぶやいている。三上、ひとり歩く。

○昼 夢解きの館を出てすぐの道

そこに、謎の男が現れる。童子大夢である。

童子大夢は國保たちに比べて歳を重ねている印象であるが、何歳かはよくわからない。特徴的な格好をしている。

童子

あのー。

三上 (警戒しつつ) はい。

童子 (勢いよく) 夢解きの館から出てきましたね？

三上 (勢いにのまれ) え、はい。

童子 ビンゴ！

と、童子、どこからか懐中電灯を取り出しそれを点ける。
空間に「あたり」と文字が浮き上がる。三上、引く。

童子

あ、引かないでくださいね。私はね、この世界がおかしいと思ってるんです。あ、おかしいのはお前だろって顔してますね。夢がね、未来を決めるって変だなって思うんですよ。昔あったじゃないですか。なんか、正夢みたーって、色んな場所ですら同時多発的に起こる、都市伝説的なもの。私、あのとき見れなかったんですよ、いい感じの正夢。それでね、ずっと調べてたんです。あの都市伝説。

三上

あ、はあ。ありましたね、そんなの。

童子

え、三上さんも、正夢ったクチではないんですか？ 大スターになっただけじゃないから。

三上

正夢ったって。

童子

あ、いきなり名前呼びごめんさいね。あ、そうだそうだ。

童子、再び懐中電灯を点けると、「ごめん」と文字が出る。

童子

うん。やっぱり大事なことは強調しないと。三上さん、有名なだからすぐ名前が割れて大変ですよ。あ、私は童子大夢と

いいいます。ああ……画数多いから無理だ。

童子、懐中電灯を取り出すのをやめ、代わりに、自分の名前が書かれた紙を取り出し三上に見せる。達筆である。

持ってるんじゃないですか。

三上

(無視して) 童子大夢です。(紙をしまう) うん、夢が未来を決めるかどうかはともかく、十年前、多くの人間が同時に正夢をみたというのが興味の対象であります。正夢であり、集団夢である。うん、私はね、そういう、夢と夢の繋がり、いや、もつといえ、脳の繋がりに、大変、興味があるんです。

童子

(やや帰したように) それ、私に関係は……？
あるかもしれませんが。だって普通、悪夢で悩んで苦しいときは、そういうクリニック行くと思うんですよ。でも、あなたはそのように思わない。夢に思うところ、あるんじゃないですか。

三上

聞いてたんですか。
いやいや、偶然！ 偶然、ちよつと、ドアが開いてたんですよ。他人の解釈が夢に、未来に影響を与える。(考察をはじめると) これは脳に影響を与えている？ 例えば、解釈された側の人間の今後行いう意思決定に影響を与える？ うーん、議論はできません。

童子

私が無意識のうちに、マネージャーの言った未来の通りの選択肢を取ってしまうってことですか？ そんなの、気の持ちようでいくらでも変えられそうですけど。

三上

さあ、どうでしょう。例えば！

童子

童子、悲しみのメロディを流す。

童子 悲しげな音が聞こえるでしょう？

三上 はあ。

童子 場合によっては、直前にどういう気持ちであれ、悲しい気持ちになることができます。音を介して、演奏者と聴衆の脳が繋がっている。そう、思いませんか？

三上 ちよつと言い過ぎな気が。

童子 (まったく気にせず) 耳で起こることは目でも、鼻でも、触覚でも、あるいは味覚でも起こるかもしれない。私はそういうことをずっと考えています。

三上 (やはり帰ったそうに) 研究者なんですね。

童子 そんなところですかね。……私としては、あの正夢現象の恩恵を受けていた人間がいた。かつ、未来が変わりそうな人間がいた。それがわかれば充分なのです。ぜひとも、また会ってみたいものです。

三上 はあ。でも、私は夢の通りに生きた訳では。

童子 それでは。

童子、去る。三上、ひとり立つ。

○三上の心の中

三上 大学の演劇研究会にどっぷり浸かった後、当然のように俳優になった。幸運なことに、たまたまオーディションに通った

映画が少し大きな賞を取った。主人公の男を振り向かせるために、周りの男を次々と手玉に取る倒錯した愛を抱く女を演じると、記者や批評家は巧みな言葉で私を持ち上げた。

黒子が現れ、三上の演じた役の衣装を見せる。

三上 悪女からはじまって、大正時代の文筆家、最年少の厚生労働大臣、地底人と出会ったモグラ、なんだって演じた。私は、演技で食べていけるようになった。

三上の参加した作品の数々が投影される。

三上 私は劇研時代と変わらない気持ちで演技を続けている。変わったのは環境だけ。企画書なんか見ると、予算はやっぱりすごいけど、いまいち現実感はない。だからだろうか。私はこの業界では、なんかすかしたろくでなしで、でも、昔の友達からしたら、別世界の人間で。

投影された光が無機質に三上を照らす。

三上 決定的に帰属意識が欠如していて、そのくせ、この生き方を取ったら何も残らないことも自覚していて。だから、こんな生活、夢の中に違いないと、何度も思った。そういう芝居を作ったこともあったから。だから……。

声(N) 次のニュースです。

投影されていた光がニュース画面、Twitter、ネットニュース等の画面に変わる。

声(N)

俳優の三上咲都美さんと反社会的勢力との関与が報じられています。三上さんはデビュー後、映画、TVドラマ、CM、など幅広く活躍を……。

三上

やっぱり悪夢は現実になった。これも、私の無意識が引き起こした必然なのだろうか。どうせ悪夢を生きるなら、学生が終わったあの時から夢だったらよかったのに。

記者たちが三上の写真を撮ったり、ボイスレコーダを突き付けたりしている。

場転。

其ノ肆

○夢の中

國保がひとり立っている。

國保

あれから、寝るたびに他人の夢をみるようになった。

声

こんな夢を見た。

様々な夢を語る声。

混ざつてよく聞き取れないが、國保には、三上の声だけ、

はつきりと聞き取れる。

声1

月が蒼く視える静かな夜に、小石に躓き転んで起きたら、体がふわりと宙に浮いて、月に来たことに気づいた。地球は月より碧く、でも、光っていて。音のない世界でも、人間の営みが聞こえた気がした。

声2

台風の間、窓の外を眺めたら分厚い雲に切れ目ができていた。ちぎれた雲の間から、整った顔の女がこちらを覗いていた。縮尺のおかしさには気づかないふりして、雨のやむまでその女と見つめ合った。

声3

家で逆立ちをしていた。なんとなく見つめていたら、時計が逆向きに回っていることに気づいた。気持ちが悪くなって逆立ちをやめると、少しだけ時間が巻き戻っていた。逆立ちを続けて、人生をやり直すことにした。

三上の声

石を積み上げて橋を造っていた。憧れの土地へと架かった橋は丈夫そうで、安心してそこを歩いた。もう少しで向こう側に着くぞと思つたそのとき、石は、脆いガラスだったと気づいた。私のハイヒールは、橋を貫いた。

國保

人の夢の解釈はしなかった。ありえないと思いつつも、誰かの未来を変えてしまうことを恐れたからだ。だけど、今、大変な目に遭っている友人の夢は放っておかず、現実でそいつに会うことにした。

と、國保、スマートフォンを出し、何か文字を打つ。

○昼 ホテルの一室

曳野、蔵津、三上が出てくる。

四人、座つて会話する。

國保

三上もあの占い師に会っていて、で、今、実際に悪夢が本当になっている。俺も、寝るたびに他の人の夢をみてしまう。三上の夢だつて、俺の見たものと一致してた。

曳野

國保の妄想でもなさそうだな。

國保

うん、だから、あの夢解きの言つてた話、信じてみようと思つて。

三上

何？

國保

十年前、俺は夢つていうか、未来を奪われて、今こういう生き方になつてららしい。

三上 何それ。

國保 うん、まだ100%は信じてないけど、もしかしたらこの中の誰かみたいな人生だったのかもしれない、ってちよつと思いはじめて。まあ、他のやつかもしんないけど。

曳野 そうだよ。他のやつらは？

國保 なんかも連絡つかないんだよね。まあ、俺、あんまり連絡取ってなかったし、仕方ないのかな。

蔵津 ー、でも無視するかな。

國保 うーん、どうなんだろ。この面子以外全員に未読無視されてたらさすがに悲しいけど。

蔵津 というか、三上もよく来たよな。

三上 まあ、今、暇だから。

蔵津 ー……。台詞覚えられるな！

三上 予定ないけど。

蔵津 ……ほう。

曳野 でも、夢の解釈通りに未来が決まるってやっぱりわからないな。生きてる限り、俺らは自分の頭で考えて行動するだろ。

三上 そう思う。てか、正夢の都市伝説が流行ったときも、俳優になる夢なんてみた記憶ないし。

國保 うん、だから、まずは夢奪いの犯人探しとかをするよりも、夢に関するこの変な現象が本当にあるのかどうか、もしあるなら、なんでそんなものがあるのか、はつきりさせるべきだと思っただけ、どうだろう。

問。

曳野

三上

國保

三上

蔵津

國保

三上

國保

三上

蔵津

國保

蔵津

國保

(沈黙に負けて喋る) いや、別にいいけど。

どうやって確かめるの。

三上の未来を変えればいい。

どうやって。

その、夢の解釈ってのか？

うん。

え。國保が夢解きになるってこと？

そうかもしれない。

は？

解釈で未来変えるって、この炎上を鎮めるってこと？

そう。

ー、いいのかな。なんか、その、三上には悪いけど、自分の都合いいように未来変えるみたいな。

だって、三上には身に覚えのない噂なんだろ？

三上、うなづく。

國保 だったら、変な悪夢のせいになった事態なんだから元通りにしたっていいだろ。何なら、こないだ蔵津の未来変えちゃったし。

え、何それ聞いてない。

いや、大丈夫。お前はいい合コンにいったらいい行ける。

え。なら、いいか。

國保 そう。だから、今回も三上の未来、変えられる気がする。(三上の顔をみながら)三上が最後に見たのって、星の夢だよな。

三上

え、うん、そう。なんか、怖いけど。

蔵津

(國保の言い訳の違和感に気づき) え。沢山合コン行くなってこ
とは……。(しかし國保がこつちを見てないことに気づき黙る)。

國保、三人から少し離れたところに立つ。

國保

なんか、どんどん夢の世界が大きくなってるんだ。三上咲都
美は、星の夢をみた。彼女は110のメシエ天体を同時に観
測していた！

と、あたりが星につつまれる。

蔵津

え。

曳野

これ、三上の夢の中ってこと。

三上

うん……。たしかにこんな風景を見た気がする……。でも、
私、今は寝ていないのに。

國保

寝ているときに他人の夢に入れるようになったんだ。そして
今、想像するだけで他人の夢を再現できるようになった。こ
れ、俺だけに見えているわけじゃないよな。

蔵津

いや、見えてるけど……。

曳野

見えてる。

三上

でも、これが夢の再現になるの。正直、この後どんな夢にな
ったか、はつきりと思いつけるわけじゃ。

國保

それもわかるようになってきたんだ。この後、銀河、星団、
星雲のそれぞれは、その色を強く放ち始める。

星々が色を帯びる。

三上
そうだった。こんな夢だった。

星々につつまれるこの夢を、どう解釈すれば未来は変わる。

……きれいな星は幸運の前兆とか？

もうちよつと具体的な、数字とか絡めた解釈とか。

炎上が落ち着くような未来だから……。

解釈なんてしなくても、炎上はすぐに収まりますよ。

と、童子大夢がやってくる。何やら撮影をしている。

蔵津

誰。てか、鍵は。

三上

あなたは。(スマホを出す)。

童子

いやいやいや、警察はお待ちください。私の行動は、あなた
がたの目的に沿ったもののはずですよ。

三上

どういふこと。

童子

こんなファンタジー、実在するんだって広めれば、炎上事件
なんてあつという間に鎮火ですよ。ほら。

と、映像が映し出される。

そこには、童子が現在撮影している映像をそのままネット

配信している様子が。

童子

スキヤンダル真つ只中の有名女優。その原因は、悪夢が定めた未来。それを証明するかのごとく、夢の風景が眼前に広がる。こんなの、多少の事件は吹っ飛びますよ。

三上

変な噂は消えるかもしれないけど、また別の騒動に巻き込まれそうじゃない。配信を止めて。

童子

安心してください。少々強引ですが、これは必要なことなんです。

三上

え。騒ぎにはなりませんよ。この現象は三上さんだけのものではないと、すぐこの世界の人間は理解します。

夢解き

と、夢解きが現れる。

照明の光量に変化し、配信映像は目立たなくなる。

夢解き

すみません。三上さんの夢、解釈しちゃったの私なんです。俺が他人の夢に干渉できるようになったのは、あなたが原因ですか。

夢解き

いえいえ、まさか。この世界、國保さんの世界なんだから、特別なのは当たり前でしょ。

國保

俺の世界？

外から来た人がどんどん増えてるみたいですね。この物語を信じる人間が増えたから、世界に素敵な余分が増してきた。

夢解き

國保さんもいますし。うん。役割のない生活が、ようやく始まる。

國保

役割？

童子

(夢解きに) あなたも、そして國保さんも、これからは慎重にお願いします。この世界の秩序を保つために。

夢解き

ぜひ。

國保

どういうことですか。みなさんに信じてもらう必要があったんです。この世界の特殊さを。でも、これからはもう一つの現実としてこの世界を維持していきましょう。

國保

……飲み込めてないですね。いったいどうい……。

と、言いかけたところで、曳野、國保の肩をたたく。

曳野

うん、やっぱり決めた。國保、お前はもう起きろ。え。

國保

と、曳野、特殊の形のスタンガンを取り出し、國保に当てる。國保、倒れて動かなくなる。一同、沈黙。

童子

何を！

あ、誤解するなよ。これは睡眠中の脳を活性化させる電流を流す特殊なスタンガンで、単に國保を覚醒させただけだ。

童子

(曳野の意図が全くわからない様子) なぜ覚醒を。こんなことして、この世界は。

夢解き

そうか。お前はこっちしか知らないもんな。大丈夫だよ。國保がない間も、この世界は確かにあった。空っぽの舞台だったけどな。

三上

どうなってるの。

曳野

話してる通りだよ。國保はあまりにも特別過ぎたから、退場願った。この世界の解像度をまっとうに高めるためにね。

葦津

解像度ってなんだ。

童子

(タブレットをみながら) え、なんだ。

再び照明の光量変化し、配信映像が見えるようになる。

童子

こんなの十年前の規模じゃない……。二十万、五十万、百万人視聴……！！

視聴者数がどんどん増えていき、なんと100万に到達する。

曳野

お、ようやく増えたか。(と、画面を操作する)

画面が切り替わると、Zoom 画面のような、Web 会議画面が映し出される。

曳野

うーん。百万人での Web 会議が落ちないなんて、さすが夢の世界だ。

夢解き

何をするつもり。

曳野

俺はまっとうにこの世界を作りたいんだ。みんなが平等に好きな未来を取捨選択できる、もう一つの現実としてな。この現実には、お前はいらぬ。

夢解き

私はむしろ、夢解きの力、いらぬんですよ。

曳野

気持ちはそうでも、お前は力を持つてるんだから野放しにできない。俺は、慎重なんだよ。

曳野、ある台本を取り出す。

そのタイトルは、『夢を解くひと』。

曳野

みなさん！ 我々をこの夢の世界に繋ぎとめているのは、夢解きの女の存在だ。でも、怖くないですか！ そんな変な力を持った人間。どうでしょう、この物語に存在した夢解きっていうのは人間じゃなく、我々全員に備わった力ってことに認識を改めませんか。幸い、夢の創造主は留守中だ。我々の意思で世界を変えようではありませんか！

画面の奥の人たちが次々にミュートを解除する。

人々(N)

我々の世界に、夢解きの女はいらぬ。

暗転。

夢買長者譚の裏

其ノ伍

○十年前 放課後 演劇部部室

手を叩く音。

國保 ちよっと一回止めます。

明転。

演劇の稽古をしている。國保、三上、曳野、蔵津がいる。

三上、曳野、蔵津は、学生服、あるいはジャージで稽古をしている。

國保は学生服を着ている。演出をしているようだ。

國保 ごめん。今更なんだけど、このボックスここにあると、この

後の夢のシーンでうまく動けなくなるな。

確かに。(装置を動かしながら) こうかな。

うん、おっけー。じゃあ、も一回やる？

と、言いかけたところでチャイムの音が鳴る。

國保 まあ、ちよっと止めちゃったしここまでにする？

曳野 いいんじゃないね。本番までまだあるし。

三上 曳野、台詞入ってるの。

曳野 大丈夫大丈夫、最終的には何とかなる。

蔵津 今回は大丈夫だろ。だって、脚本書いてるんだから。違うぞ。

曳野 いや、めっちゃ手伝ってくれたでしょ。

國保 (笑って)でも、書いてはないからな。書くのは國保先生に。

三上 てか、なんで今回は二人でやったの。

國保 え、調べもの大変そうだったから。

蔵津 あー、なんか、歴史ものっぽいもんな。いや、現代劇なんだけど。

國保 そう、なんか、かっこいい感じにしたいじゃん。

曳野 それに、俺はこれが演劇ラストのつもりだし。

蔵津 え、そうなの。

曳野 大学は、わりと勉強したいし。

蔵津 すぐえな。俺、遊ぶことしか考えてない。

三上 え、みんな高校でラスト？

國保 どうかなあ。演劇部もいいんだけど、やっぱ普通のサークルもいいよなあ。

蔵津 わかる。

三上 えーまじか。

國保 あ、でも今回はもちろんガチだぞ。どうするにせよ、このメンバーは最後だし。

曳野 たしかに。

三上 うん、いい劇にしたいね。

場転。國保にスポットライトが当たる。他の人は去る。

○國保の回想 ～高校編～

國保、ひとり立つ。

國保

この劇は、全国大会で審査員特別賞を受賞し、僕らは大いに浮かれた。その頃、正夢現象なんかも起きて、本当に、物語の主役になった気分だった。結局、身の回りで正夢現象に遭っている人がいなくて、その熱は冷めたけど。

黒子が出てくる。

國保、ズボンをワンタッチで落とし、シャツをあつという間に脱ぐと、舞台序盤で着ていたズボンとTシャツのみになる。そこに、黒子がこれまで着ていたものと別の上着を渡す。大学時代の服装なのだろう。

○國保の回想 ～大学編～

國保、人に囲まれている。

國保

商学部2年の國保守です。

人1

どうしてこのタイミングで？

國保

いやー、やっぱり演劇やりたくって。

國保、心の声が舞台へと漏れ出る。

國保

全然嘘だ。サークルってのは、どうも肌に合わなかった。

人2

え、あだ名何？

國保

ねえよ。

人3

授業出てんの？ ダッセー！

國保

金もつたないだろ。

黒子、國保から離れる。

國保

やっぱり、タイミングを間違えたみたいだった。もう、部員の役割は、なんとなく決まっていた。

黒子が何人も國保の前を通過する。

○國保の回想 ～ゼミ・就活編～

國保、いつの間にかスマホを手にしている。

じつとスマホを見つめ……。

國保

あー。やっぱり落ちたかあ。

國保の後ろで黒子が二人、噂話をしている。

人4

高木ゼミ、就活強いしな。

人5

しかも割と楽しいぞ。

國保

そんな理由で選ぶなよ。そんな奴より成績悪いけど……。

噂話をしていた黒子二人、就活に励んでるらしい。

人6 この度縁あって結婚しました。
國保 (振り向かず) おめでと。

別の黒子が肩をたたく。國保は振り向かない。

人4 無い内定回避しました！

人5 はや、インターン？

人4 そうそう。

人5 だー、合宿行っちゃってたよー。

人7 久しぶりに飲み行こうぜ。

國保 (振り向かず) いいじゃん。何食べる？

人7 ワイン美味しい店あったんだよ。

と、会話するのをよそに、別の黒子が國保の肩をたたく。

國保、少し考え……。

と、黒子、スマホを渡す。國保、振り向かずそれを受け取り、店を確認し、スマホを返す。

國保 劇団を旗揚げてしまった。ここか。ここが分岐点だったか！

國保 (振り向かず) トリキでいいのに……。

國保、頭を抱える。その周りを複数人の黒子が歩く。

さらに別の黒子が肩をたたく。國保は振り向かない。

黒子の一人が國保の上着を回収し、もう一人が國保に別の上着を渡す。國保、それを着る。どうやら最近の國保

らしい。

人8 俺、マンション買ったわ。

國保 (振り向かず) すごいじゃん。

人8 今度遊びに来てよ。

○國保の回想　↳劇作家編　↳

と、人8が言い終わる前にさらに別の黒子が肩をたたく。

國保は振り向かない。

國保は脚本を書いている。

黒子が肩をたたく。國保は振り向かない。

人9 俺、父親になるんだ。

と、人9が言い終わる前にさらに別の黒子が肩をたたく。
國保は振り向かない。

人10 海外赴任だからしばらく会えないわ。

と、人10が言い終わる前に複数の黒子が國保の肩をたたき近況報告を行う。

黒子は、合計四人立っている。いつしか、黒子の話している声は、近況報告から現在の國保を悩ませる声へと変わっている。はじめは何を言っているかわかるものの、すぐに声は混ざり合い、何を言っているのかよく聞き取れなくなる。ときおり、黒子はひとりずつ、演劇のチラシをどこからか取り出す。ひとりの黒子がチラシを掲げている間、他の黒子は話すのを止める。

人1 (チラシを出す)と黒子全員の声が止まる(流れ星に乗って宇宙へ飛び出す話。
勢いのわりにはよく書けたんだよ。

黒子、話し始める。

人2 (チラシを出す)と黒子全員の声が止まる(村のM&Aを繰り返す国造りの話。

このときが動員ピークだったのかなあ。

黒子、話し始める。

人3 (チラシを出す)と黒子全員の声が止まる(並行世界の狭間から

抜け出す話。

なんか、結婚ラッシュあったなあ。このとき。

黒子、話し始める。

人4 (チラシを出す)と黒子全員の声が止まる(心の声を聴く聴診器

をもった医者の話。

仲間も段々減ってきて大変だったけど。でも……。

黒子、話し始める。少しして、國保、耐えきれず、少し強めにパソコンを閉じ、立ち上がる。

それでも、続けてきた。これがやりたいことだって、思ってきたから。でも、ふとしたときに、色々振り返ったら、なにが残ったのか、わからなくなった……。

○現在 國保が台本を書いてから数日後 國保の部屋

國保、ひとり立つ。

床に落ちていた台本を拾い、握りしめる。

國保

どうして忘れていたんだ。僕は、ついこの間、この台本をリメイクしたんだ。そうだ、それだって曳野に背中を押されて書き始めたんだ。

と、台本が投影される。

國保

現実では僕のリメイク戯曲が考えられないほど有名になっていた。そして、この映像は……。

奇妙な音と映像が流れる。
場転。

其ノ陸

○夢の世界 同ホテルの一室

曳野がひとり、説明をしている。

曳野 この世界を語るうえで、夢解きの女は欠かせないだろう。

夢解きが出てくる。いくつもの仮面を持っている。

曳野 物語には解釈がある。だから当然、登場人物の人となりにも解釈が存在する。

人々が現れる。夢解きの周りを不規則に歩き回る。

人1 夢解きはひどい女だ。

人2 夢解きは素晴らしい主人公だ。

人3 夢解きは流されてるだけ。

人々が話す間に、夢解きは仮面つけ、それを外しては投げ捨て、と繰り返し返す。

曳野 まったく同じ台詞の集合体が、こうも形を変える。それも当たり前かもしれない。俺たちは、他人の聞いている言葉を真には聞けないし、他人の見る風景だって覗けない。

曳野、ずっと舞台上にあつたあるボックスを手取る。

曳野 つまり、俺らはひとりひとり、異なる世界をもっている。知識も、価値観も、感性さえも自分だけのものだ。そんな世界の数々が、どういうわけか繋がった。そう、俺らは想像力を持ち寄って、もう一つの現実を作り上げたんだ。

人々が曳野のもとに集まる。人々、曳野の持っているボックスを割って、ミニチュアの街並みを出現させる。人々は去る。曳野は、街を手を持つ。

曳野 夢解きを望んだ人々。その繋がった夢の中では、一つの小さな世界が生まれた。この世界では、夢解きの女が、俺らの未来を占ってくれた。

夢解き、水晶を取り出す。その水晶は光を放つ。

曳野 これが十年前に起きた正夢現象の正体だ。普通の人間は夢解きのことを忘れてしまいが、俺は違った。そう、俺だって夢解きを作った一人だからだ。もちろん、俺だって初めから理解できていたわけじゃなかったし、そもそも信じちゃいなかった。でも、あのとき。

曳野、夢解きに迫る。

曳野 藁にもずがる思いで夢解きを訪ねた。その瞳の奥に、ある夢の風景が広がっていた。俺は、その景色を口にした。

夢解き、去る。同時に三上、蔵津、童子が出てくる。三人は話を聞いていたようだ。

なお、蛇足ながら……。この小さな世界というのが、其ノ壱から肆まで描かれた世界である(つながった夢の中)。この世界にのみ夢解きは存在する。夢の世界だから、夢の中の夢が具現化するという超常現象が起きていたわけであるが、「こ」での占いが真の現実に及ぼす影響については、まだ完全に解明されたわけではない。では、本編に戻ろう。

三上 その、口にしたのが、國保の夢ってこと。

曳野 ああ。

三上 その夢を國保からとったから、研究者になれた。

曳野 まあ、そうなるか。

蔵津 お前は、ずっと決まった人生を生きているのか。

曳野 そうといえはそうだ。……夢のお告げとでもいうのか、イベントのたびに無意識的にわかるようになるんだ。ここは、学者になるために外しちやいけない、頑張らなきゃいけないポイントなんだって。

蔵津 それを教えてくれるのがこの夢の世界か。俺らは、國保の書いたあの台本の中にいるのか。

曳野 ああ。その設定を引き継いだ世界だ。

三上 でも、私たちはあんなに國保の劇に関わったのに、正夢現象に遭っていない。

曳野 あの劇は全国大会まで行ったな。あの劇を観た人間のうち、國保の書いた物語に特に脳を揺さぶられた人間が、正夢現象にあった。

三上 感動した人ってこと。

曳野 ー、話そのものもそうだが、どっちかっていうと、「夢解き」が本当にいいのにな」って思ってしまった人だな。

問。

曳野 まあ、俺もその一人だ。……結局、わかっちゃいないのさ。なんで夢の世界に、なんで國保の書いた物語に入り込めるのかなんで。でも、複数の人間の夢、いや、脳が繋がった。この事実だけは確かだ。もしこれが何かしらの現象なら、再現できるはずだ。だから俺は、学者になるというシナリオの中で脳科学を選び、研究を始めたんだ。(と、童子を指す)

童子、曳野の協力者であるはずだが、さっきとはうって変わって警戒している。

童子 Brain to brain interface の応用です。

三上 は。

以降、説明に合わせ、イメージ映像が投影される。

童子

私の専門は、脳を活性化させる周波数・映像・その他の知覚効果の発見です。通常、脳への非侵襲的刺激は磁気・電気・超音波のいずれかで行われます。しかし私は、一般的な音・映像でそれができないか調べてきました。

童子

その二、その脳の部位を活性化させるために必要な音・映像効果の作成です。これに何年もかかりました。

脳に電波のようなものが当たり、目的部位が活性化している模式図が映し出されている。

其ノ伍で流れた奇妙な音と映像が流れる。投影、終わる。

曳野

だからこの人は学界に相手にされてこなかった。

曳野

そしてその三、夢解きというキャラクターと一緒に、その映像を世界中に普及させることだ。小型BBIはワイヤレスイヤホンの部品会社経由で流した(と、ポケットからワイヤレスイヤホンを出す)。条件が重なる人間がどれだけの不安だったが杞憂だったな。だって、ここの人口がこれだけ増えているんだからな。

童子

曳野さんは、刺激を受けた脳波の受信、そして、受信した情報を別の脳へと伝達することのできるBrain to brain interfaceを作製しました。我々の行うことは三つ。

童子

そうして、我々は繋がった夢の世界というファンタジーを、再現性ある技術にした。もちろん、強引なやり方だった。褒められることではない部分もあった。だけど、そこには純粋な真理の探究があったはず。(曳野に)違いますか。

童子

その一、夢の世界の入口の特定。國保さんが台本のことを忘れていた間も夢の世界は存在していた。曳野さんは時折その夢をみていましたから。私は、曳野さんの脳を調べ、夢の世界に入るとき使われる脳の部位を特定しました。

童子

夢は現実のシミュレーションになる。多くの人が困難に直面したとき、どの選択が最適か試すことができるようになる。そんな可能性を秘めた研究なんです。なぜ、二人を追い出したのですか。なぜ、相談せず人口を増やしたんですか。

曳野は答えない。童子、曳野に近づく。

曳野 これでもいいんだよ。

童子 なぜ。

三上 ちよつと待つて。これから何が起きるの。

曳野 夢解きがいなくなったことで、夢が、未来の人生が売り買い

できるようになった。俺らは安心して、これからの人生を選

択できるようにする。

蔵津 自分の将来を選べるってことか。

童子 いきなり力をばらまくのは危険すぎる。なぜそこまで急ぐん

ですか。

曳野 夢の世界がいつまでも続く保証がどこにある。俺のお告げだ

って、十年前から更新されていらない。……まあ、いいじゃな

いか。きっとこの世界の連中も歓迎するさ。

曳野、去る。

○夢の世界

三上、蔵津、童子がいる。

そこに、フードが三つ、投げ込まれる。三人、それを拾う。

三上 何事もなく日々は過ぎていった。

蔵津 ただし、國保とは連絡がつかないままだ。

童子 自分ではこの夢から覚めることができず、外界とのアクセス

は止まったまま。

以下、三人のうち、話している人のみ、顔がはっきりと見

えるが、それ以外の人は、フードをかぶったり、横を向い

たりしているせいで、顔はよく見えなくなる。

話し手が変わるごとに三人の立ち位置は変わる。

三上 どうせ夢の中だし、と、無茶苦茶やる人も現れなかった。そ

れほどまでに、この世界は現実だった。でも、あるときから。

人1 こないだみた夢なんだけど。

人2 おい、話していいのかなよ、

人1 いいんだよ、悪夢だから。

三人の立ち位置が変わる。

蔵津 夢の売買はあつという間に広まった。将来見えてきたな、と

思い込んでいた人たちが、こぞって人生の交換を始めたんだ。

人1 俺、料理人になってみたかったんだよね。

私はデスクワーク、ずっとやってみたかった。

人1と3人の立ち位置が変わる。

人3 大工になってみたかったんだ。

勉強も今やると楽しいもんだな。

三人の立ち位置が変わる。

人3 ねえ、その夢、悪夢だと思うよ。

人2 え、どうすれば。

人3 私が、もらってあげるよ。

童子 しばらくして、他人の夢を騙しとる人間が出てくるようになった。結局、現実と同じ、口のうまい奴が勝つ世界だ。

三人全員がフードを取る。

三上 夢の売買が、人生の交換が終わらない。

蔵津 やり直してしまうから、諦められないんだ。

童子 人は、慎重に選択することを放棄してしまった。

夢の売買を行う声が舞台を埋め尽くす。

暗転。

其ノ漆

○其ノ伍のすぐ後 國保の部屋

明転。

國保、何もできずにいる。部屋は薄暗い。

ラップトップから光が漏れているが、國保はそちらの方を

見ていない。寝ようとしても寝れないようだ。

少しして、ラップトップの方をみて、少し考え事をする。

國保 夢の世界の数日は、一晩にもなっていないかった。……向こう

はどれだけ経ったんだ……。

夢解き 我々が追い出されてから、もう何週間か経っちゃったかもしれ
ませんね。まるで、あの映画みたい。

と、ラップトップのさらに先から夢解きが話しかけてくる。

國保 あ。

夢解き やられました。あなたと同じです。

國保 現実にはいいはずじゃ。

夢解き ええ。でも、國保さん。あなた、今本当に起きていますか。

二人はラップトップを挟んで向かい合っている。

國保 今、僕は寝ている？

夢解き ふふ、すみません。あなたは起きていますよ。でも、あなた
の（少し考え）想像力が活性化してしまった。だから私が見
えてる。でも、見えてるだけ。触れやしないですよ。

國保 え、ほんとですか。（と、触ろうとする）

夢解き （身構える）

國保 あ、すみません。

夢解き （少し笑い）私が現実にいるとかいないとか、そんなことは
どうでもいいんです。だって、私を作ったのはあなたなんだ
から、私はあなたの一部なんだから。まっとうな現実なら、
共存できるわけない。

國保 ……あなたも夢を追い出された。

夢解き はい。夢の解釈の力、私だけが持つてるのが嫌みたくです。

國保 曳野が。

夢解き あの世界の大体が。

國保 そうですか。あなたは、夢解きが嫌だったんですか。

夢解き （考えるために少し歩きながら）國保さんって、例えば……五
年前とか。劇の公演など、思い出あると思いますけど、それ
以外の毎日の食事、バイトでの作業、通勤風景などなど。そ
ういう詳細って全部覚えてますか？

國保 え、覚えてないですけど。

夢解き そう、それが普通です。そして、私にとっては、夢解きとい
う与えられた役目以外はすべて、そんな取るに足らない出来
事なんです。

國保 役割以外は記憶に残らない。

夢解き だつて書くとき、そう作るでしょ？

國保 (答えられない)

夢解き さ、これからどうしますか。

國保 ……でも、夢の中で何やっても、現実に影響なんて。

夢解き あなたは人生を奪われましたよ。

國保 あなたも協力者でしょ。

夢解き あのときは違います。

國保 え。

夢解き だつて、書き直したでしょ。

國保 (納得いかないが置いておくことにし) まあでも、学者になるなんて今更考えられないですよ。

夢解き でも、そんな人がこれから増えますよ。

國保 あの世界で、夢の奪い合いが？

夢解き 私や國保さんを排除したのは、夢解きの力を得るためでしょう。

國保 う。ただ、そうすると、あの世界の人間全員に夢解きの力が

備わるわけですが。結果、誰もが自由に夢の売買ができるよ

うになつた。自由競争の果てには敗者が出てくる。

國保 でも、もう遅いですよね。

夢解き わからないですよ。作者はあなたです。

國保 でも、この話はもう僕の手を離れた。

夢解き まだいますよ。この話の作者が誰なのか、覚えている人たちが。

○夢の世界

三上、蔵津、童子がいる。童子は正座をして反省している。

童子 どうやったら目覚めるんですか。

三上 いやー……。

童子 脳、調べたんですよ。

三上 いやー……。

童子 新規技術は予期せぬ悪用まで考慮してつて技術者倫理研修

で習うでしょ！

蔵津 いやー……。

童子 もう責めてもしょうがない。國保や夢解きを呼び戻すしかない

だろ。この人、もう何もできなそうだし。

蔵津 (しれつと正座をやめ) 私、映像や音楽作るのが専門ですから

ねえ。

童子 目覚める映像とかできないの。

三上 実は、一回実験してるんです。

蔵津 何を。

童子 この世界の時間の流れ方。おそらく、あと一週間もすれば勝

手に目覚める時間です。それに、もしものときのために、國

保さんに使ったあれで起きることになってたんです。今は曳

野しか持ってませんが……。

蔵津 どうしてあなたはそういうの、持ってないんですか。

童子 持ち込めるのは、日常的に身に着けているものと、眠るとき

手に持っていたものだけ。だから私は……(懐中電灯を出す)。

時、同じくして……。

蔵津

これは、何かに使えるんですか？

童子

気になりますか。

三上

(ため息をつき) で、國保とか呼び出してどうするの。

蔵津

追い出したってことは、いられると困るんだろ？

三上

(童子に) そうなんですか。

童子

……オリジナルの創造主ですからね。あの世界がどうしてできたのかは、我々もわかっていないので。

蔵津

じゃあ、どうやって現実世界とここを繋げるか。

三上

無理でしょ。

蔵津

まあ、だよな。

童子

彼らが阻まれているのは、夢解きの物語が歪んだ解釈をされたからと思われれます。

三上

歪んだ解釈？

童子

本来は……。十年前は、確かに物語を知っている人がこの世界を形作っていました。でも、今は、話の中身なんて知らない、作者の名前も知らない、夢解きというキャラクターのほんの表面しか知らない人たちがこの世界を作っています。そして、この世界を変え得る人間の介入を拒絶している。

三上

作者なのに報われないね……。

蔵津

でも、夢の売買で損した人たちは、介入を望むんじゃないか。

童子

(うすうす気づいていた様子) そうかもしれません。だから、そういう人たちに向けて國保さんの存在を強く訴えかければ、國保さんの夢とここが繋がるかもしれない。國保さんがここに入ろうとしていけば、ですが。

三上

そこは、やってるでしょ。

蔵津

正直、よくわかんないけど、曳野をなんとかしたほうがいいってことは確かで、國保もきつと、そう思ってるはず。

三上

夢をとられた最初の被害者だし。

蔵津

まあ、あいつが学者とか、向いてなさそうだけだな。

三上

演劇続けてくれなきゃ困る。割とちゃんと、観に行ってたし。

蔵津

え、俺らここで何かやったら、國保、学者になっちゃったりします？

童子

私たちにできたのはこの世界の入口を作ることだけ。それ以上は……。

蔵津

……いや、でも、國保はやっぱ、ここに来たほうがいい。

三上

え、じゃあ。

蔵津

と、三上が話すと何やら場の雰囲気が変わる。三上、サングラスをかける。

三上

やること決まった感じよね。ターゲット絞って、國保の書いた本当の物語と、その作者を脳に植え付ける！ 人前には私が出る。映像とか、機械とか、そういう細かいのは(童子を指し) お願いしますね。

童子

あ、はい。……はい。技術の責任は、必ず技術で。

蔵津

俺は。

三上

その他。

蔵津

その他？

三上

全部。

蔵津

その他全部！？

國保
夢解き

変わった気がする。
何が。

○同刻 國保の部屋

國保と夢解きが会話をしている。

三人、作業を行う。

童子は、高い場所に座りPC作業を行う。おかしな眼鏡をかけて作業をしている。ブルーライトカットだろうか。

三上は、誰が書いたんだかよくわからない台本をもち、稽古をしている。童子の周りを歩き回るが、ときおり、童子の様子をみている。

蔵津は、一番大変そうである。舞台から出ていき、荷物を持ってきては三上に確認してもらおう。チラシや企画書、機材のカメラを見せたりする。ダメ出しが多そうだ。

三人は作業をしながら色々話しているが、それを聞き取ることができない。ひとつわかるのは、童子が今までになく真剣な顔をしていることである。

時、同じくして……。

國保

何が。

夢解き

全然わかりません。

國保

わかんないけど、なんか夢に入れそうです。

夢解き

なら、私も。私だけ拒否されないといいですが。

國保

そうか。あなたはあの世界に。

夢解き

あんな解釈違い、変えてしまえばいいんです。

と、あたりがメシエ天体の夢のとき以上に色と光、そして轟音につつまれる。

夢の中に、はいつていく。

○夢の入口

國保と夢解きが二人で立っている。

國保

はじめからこんな感じなら、夢ってわかったのに。

夢解き

普段、無意識的に眠れるからみんな正気でいられるんです。

黒子が三人現れて、夢の売買の結果を話す。

「軽はずみに決めるべきじゃなかった」「華やかな仕事だと思っていたのに、後から調べたら嫌な噂が多かった」「やっぱり、あの仕事続けたかった」など、人生の交換に失敗した人の声が聞こえる。そして黒子は去る。

國保 そうか。もう、売買が。

夢解き 國保さんもしますか？

國保 いや……。あなたは、夢でどうするんですか。

夢解き どうするって。

國保 その、役割を。

夢解き ああ。(少し考え)あなただって、ここで何を？

國保 何するんでしょうね。

夢解き でも、行かなきゃいけない。

國保 はい、それはきつと、間違いなくて。

夢解き ……別の人生は、望んでない？

國保 あなたに会ってから、色々考えました。でも、なんか……(と、考える)。

夢解き なんか？

國保 やっぱり、かもしれないって気持ちって、なんか、なくな

なくて……。僕、結構、精神状態が出ちやうんですよ。あ

の、台本に。だから。

夢解き だから？

國保 ……いや、十年前と別人っていうのが。

夢解き 私の行動に、あなたの気持ちか？

國保 ……いや、なんというか。

夢解き (言い終わるのを待たずに)いくら作者でも、それは思い上が

りですよ。登場人物は、勝手にしゃべるものでしょ。箱書き

通りに、私たちは動かない。

國保 ……まあ、そうですね。

夢解き でも、それをわかっていない人がいることも確かです。

國保 はい。すべてを筋書き通りなんて……。やっぱり僕らは、話

夢解き さなきゃいけない。

彼と、彼に賛同した、この世界と。

國保と夢解きの先には、曳野の姿が。

場転。

夢
解
人
事

其ノ捌

○夢の世界

國保と夢解きは、曳野と向かいあつている。

曳野 劇作家 國保守、か。……なあ、俺らってこんな名前だったか。

國保 は。

曳野 わからなくなるよな、色々……。覚えてないか。あの台本を

國保 作る時、昔の資料、調べたろ。

曳野 ……醒睡笑の正夢の話、沙石集の若い僧の話、ヨセフの夢解

國保 き。色々混ぜて夢解きを作った。

夢解き、少し納得いつていない様子。

曳野 ……こんな話も調べなかったか。ある国の守の息子が夢解き

の女のもとを訪れる。夢合わせが終わり、息子が帰ると、店

の奥から盗み聞きをしていたもう一人の男が現れる。男は、

聞いた夢をそっくりそのまま語って国守の息子の未来を奪

い、生まれからは考えられないほど高貴な職を得る。その男

の名前は、ひきのまき人。

國守と、ひきの……。

曳野 まるで俺らだ。俺らは、ただ繰り返しているだけなのかもしれ

ない。

夢解き 何を。

曳野 中世から続く、夢奪いの物語を。

國保 どういうこと。

曳野 この夢の世界、お前に何らかの不思議な力が宿って生まれた

とは、俺は思っていない。

國保 ……そんなすごい力があつたら、もっとうまくやってる。

曳野 もしかしたら、国守の息子の復讐なのかもしれないな。

國保 復讐。

曳野 この現代で夢はやっぱりただの夢だ。そんな世界を壊したか

つたのかもしれない。

夢解き じゃあ、なぜ私はもう一度生まれたんですか。国守の息子の

夢を奪った夢解きの女が。

曳野 さあな。……全部妄想だ。この奇妙な名前の一致だって、気

付かないふりするしかない。國保、お前はこの世界の創造主。

夢解きが証拠だ。でも、俺らが創作物でないという保証はど

こにある。

國保 そんなの。

曳野 ああ。示すのは無理だ。だから俺はそんなことに拘るつもり

はない。……俺は、夢を奪われたりしない。それに、自身が

創作物であつたとしても、役割を放棄することもない。役割

が気に入らないなら、自分で書き換える。俺が乗るシナリオ

は、俺が決める。

夢解き だから、夢解きの力を。

曳野 もう、争うこともない。あと少しで朝が来る。所詮夢の中な

んだ。多少何かあつたって、みんなすぐ忘れる。

國保 でも、これから人生が。

曳野 信じるのか。こんな話を。

國保 俺が証拠だ。

曳野 お前が本当に学者になれたと。

夢解き 本当だからあなたは行動した。昔も、今も。

曳野 ふん。ま、それもそうだ。で、どうするつもりだ。すでに世界中で夢の売買は行われた。一つ一つを元に戻すような時間は、もうないだろ。

國保 ……俺らはこうしてここに来た。夢の売買で負けてしまった人たちがもとの現実を望んだからだ。

曳野 都合いいよなあ。自分で参加したのに。

國保 夢に入れたのはお前だ。

曳野 ふん。

夢解き 買った夢は、すでに解釈した夢はもう変えられない。でも、

新しい解釈で書き直すことができる。

國保 曳野、まだ気づかないか。もう一度俺らをこの夢に入れてしまったということが、何を意味するのか。

夜のはずなのに、燃えるような赤橙色の光が差し込む。

曳野 夜に太陽か……。ふん、この世界を単なる夢幻として終わら

せたい連中が増えているってことか。でも、全員じゃない。

と、曳野、其ノ肆のときと同じWeb会議画面を出す。し

かし、その人数は、三十万人。

曳野 そうか……。儲かったのは、半分もないか。

と、曳野を赤橙色の光が照らす。

曳野 やっぱりお前らがいるところなるか。

夢解き 忘れましたか。ここは夢です。

曳野 でも、何が起きようが解釈をするのは俺だ。

曳野、太陽をじっとみつめ。

曳野 夜に太陽が昇るのは秩序の崩壊。と、(夢解きをみながら)云

うやつもいるだろうが、俺はそう思わない。ありえないことが起きた。この世界では、本来叶うはずでなかったことが叶えられるということなんだ。この夢の世界を信じる。ここで手にしたシナリオは、きつと現実になる！

と、太陽の光が消える。

曳野 何が起きても俺は俺らのための解釈を残す。それだけだ。

國保 これ聞いてもか。

と、周りから、「この世界が夢幻であつてほしい」「悪夢が待ち受けているのなんて嫌だ」「急に連れてこられて未来を奪われるなんておかしい」などの声が聞こえてくる。重なつてよく聞き取れない。声は聞こえ続ける。

曳野
これは。

國保
奪われた者たちの声だ。……あのときと同じだ。これからこの世界では夢の風景が目の前に顔出す。夢らしさを取り戻す世界の中で、もとの現実に戻るための解釈を見つけてみせる。

と、場がメシエ天体につつまれる。三上の夢のリフレイン。

夢解き
メシエカタログがすべて眼前に。星々という、手の届かないものの具現化になります。

曳野
なら、途方もない夢に手が届くという解釈ができるな。夢解き、なぜお前は國保の味方をする？ 國保がお前の創造主だからか。

と、星々は色を失う。現実離れた光の雰囲気の中、夢解きめがけて、複数のテープが飛んでくる(黒子が走ってきて夢解きを縛る)。

曳野
お前はシナリオに縛られる。それを拒絶したかった。役割から解放されたかったんじゃないのか。

國保
縛っているのは一色の糸か。
照明が変わると、複数のテープは実に様々な色を持っていて、それがわかる。

夢解き

確かに私はシナリオに縛られる。でも、読み手が、演じ手が、観客が変われば私の解釈も変わる。文字に表れない詳細を、想像力が作ってくれる。

夢解きを縛っていたテープ、落ちる。

夢解き

曳野さん、あなたはなぜシナリオ通りの人生に拘る。

と、曳野にスポットが当たる。

曳野の周辺に大量のテープが落ちてくる。

曳野

先の見えない人生だ。どんな困難が待ち受けるかわからないのに、何の寄る辺無く歩み続ける方がどうかしている。

テープが落ちるのが終わる。
床は散らかったままである。

國保

お前はいつからか慎重になった。

あれから十年経ったんだ。嫌でも色々積み重なる。俺らは、どんどん間違えられなくなっていく。お前だって、過ぎ去った時間後悔があるからこの世界に来たんじゃないのか。そうかもしれない。でも、十年間を簡単に交換していいのか。別に、極端な交換をしなればいけない決まりはない。慣れてない人たちの売買です。何が起るかわからない。役割を放棄したお前に何が言える。

國保

曳野

夢解き

曳野

夢解き

私は、夢解きの力のない世界を望んだだけです。

曳野

力がないなら、こんな世界ある意味ないだろ。國保が夢をとられてもなお、蘇らせた世界なのに。

國保

……でもな、曳野。おかしいって思うかもしれないけど、俺、（夢解きを見て）夢を奪われたって言われて、驚いたけど、なんか少しほっとしたんだよ。こんな人生、俺のせいじゃないんだって。奪われたんだから、しょうがないんだって。

黒子が三人出てきて國保を囲む。蔵津の夢のリフレイン。

國保

蔵津は他人の人生はしんどそうだから今の自分に納得するって言った。でも、俺はやっぱりうらやましい。

國保の周りを黒子が回っている。その手にはそれぞれ、アカデミックガウン帽子、サングラス、そして、ビジネスバッグ。

國保

満足できなかった。売り上げもそうだけど、自分の作る話に。いや、自分の生き方に。作ることしかしてこなかった。そんなに遊べなかったし、色々経験が足りてない気がした。そんな俺に何が書けるんだろうと思っていたんだ。

黒子たち、持っていたアイテムを捨て、懐から演劇のチラシを取り出す。國保がこれまで作ってきた演劇の、数々のチラシである。黒子たち、引き続き國保の周りを歩きながらチラシをばらまき始める。

國保

それでも作ることをやめられなかった。それしかできなかった。本来、俺、学者になるんだったよな。天職でないはずの劇作が人生の半分以上を占めるようになった。これは、何を意味する？ 解釈はまとまらない。

チラシが大量にばらまかれている。黒子たち、去る。

曳野

劇作を続けてくれるんなら俺の罪悪感もなくなるな。

と、言い終わるか否かのところで朝日が差し込んでくる。

國保

もう、朝が来る。きつと次が最後の解釈だ。……曳野、お前は本当に決まった未来を生き続けるのか。たしかに、お前の世界には救いがある。でも、この力がある以上、俺らはきつと誘惑に負けて、これまでの人生を差し出そうとする。やっぱり、俺は俺を誇れない。でも、夢のお告げなんて関係ない……誰かに決められた人生じゃなかったってわかったから、それでも続けてこられたんだって思えたから。まだ……俺は、俺の決めてきたこと、信じたいんだって、思うんだよ。

曳野は答えない。

國保

……やり直せるのも、未来が約束されるのも、すごいことだよ。でも、本当に、それでいいのか。

と、天井から大量の細長い布が落ちてくる。

曳野

え。

曳野

……先に言ったもん勝ちだ、解釈は。(と、布をみながら) いつらは一本一本が可能性の糸だ。天界に続く犍陀多への糸のように、俺らを導いてくれる。ひとりひとりが好きな未来を選べばいい。

曳野
國保

お前ら。
俺らが戻ってこれたのは、みんなが人々の説得をしてくれたおかげだ。この場所も、配信されていたんだ。

と、言つものの、何も起きない。

と、童子、タブレットとカメラをみせる。

曳野

ま、いいだろう。朝を待つだけだ。

國保

何も起きないのは、解釈のせいだ。

曳野

それでどうして力が。

夢解き

なに？

國保

……何が夢で現実か、いい加減、こんがらがってきたよな。たぶん、夢から覚めるときくらい、みんな、これまでの自分でいたくなつたんだろ。

夢解き

まだ、見えませんか。

と、布に、大量の言葉が浮かび上がる。

曳野

俺が、おかしいと。

國保

お前はシナリオ通りに生き過ぎた。一度、全部捨てるのもいいだろ。もう今のお前は、立場も実力も、ちゃんとあるんだから。

曳野

(答えず、力なく座る)

そこには、「生活の不安はないが黙々と作業続ける将来」「人に恵まれるが誰かと過ごし続ける生活」「必ず報われるが苦しい努力し続ける未来」「未経験の大仕事への挑戦を常に続ける日々」「解き甲斐ある難問が溢れ続けてしまつ世界」と、人々の確定した、恵まれてるが少し窮屈な未来が書かれている。文字はエンドロールのように流れる。

國保と夢解き、前に立つ。

國保

これは、この世界で確定してしまった人々の未来だ。

曳野

なぜ、そんなものが。なぜ俺には見えなかった。

國保

これらは、何を示しますか。
こいつらは、この世界でできてしまった、凝り固まった未来の生き方だ。

夢解き

もう、あなたには力が残っていないのです。

夢解き

ひとつひとつはよく見えても、他人と比べて絡まって、根元に行けば先は見えない。

國保

だから、これで終わりにする。がんじがらめの未来をすべて、ゆめほど夢解きだ！

と、夢にはいるとき同じような光にあたりがつまれる。

輝きは落ち着きいったん暗くなるが、また光が差し込む。

夢解き

はらり、はらりと落ちていく。

童子が布をつかみ、そして、それをちぎって舞台から去る。

夢解き

こうして繋がった可能性の糸は、あるいはきつと、あみだくじで。神様はそれを、気まぐれで落としたのかもしれない。

三上が布をつかみ、そして、それをちぎって舞台から去る。

夢解き

人々は精一杯、線を付け足すけれど、終着点に何があるのか、どうしてもわからなくて。

蔵津が布をつかみ、そして、それをちぎって舞台から去る。

夢解き

誰かが夢をみる、私たちがそれを解く。たったこれだけで未来が決まる。そんな夢物語を、これだけの人が信じていた。

曳野が布をつかみ、そして、それをちぎって舞台から去る。

夢解き

もしこの夢に解釈を与えるなら――。

と、夢解き、國保が布をつかむのを見ている。

國保、布をちぎり、それを捨てる。

朝が来た。舞台は朝日に照らされる。

舞台には、布やテープやチラシなどが散乱している。

そのなかに、國保と夢解きがふたり立っている。

國保

これで、戻りますかね。

夢解き

どうでしょう。蔵津さんはなかなかいい人に出会えないかもしれない。あなたとのせいで。

國保

それは、謝らなきゃ。

夢解き

はい。

問。

國保

……曳野が言っていましたね。この世界、国守の息子の……。

夢解き

ああ。でも、そんなの。

國保

はい。誰にもわからない。……でも、夢を奪われたこんな僕

でも、何かひとつを積み上げられる。そんなことを示せば、

きつと、この世界も。……だから僕は、あなたを書きます。

夢解き

もう、書いてるでしょ。

國保 もっと、いい感じに。

夢解き 今は違う？

國保 いや、もっと、色んな人に愛してもらえるような、そんな。

夢解き 期待してます。

（前をみる）もう、この話は閉じよう。十年前も、中世の夢奪いの話も、そういうの、全部捨て去って。……国、そして守。この夢を断ち切るため、新しく僕はこれを名乗ろう。

と、國保、舞台から降りる。その瞬間、後ろの壁がはがれ、裏から、『木口 人 現代宇治拾遺物語 其ノ百六十五 夢を解くひと』と、タイトルが出る。

國保、舞台の外へ向かって歩き出そうとする。

夢解き 次の話は？

國保 さあ。まったく思いついてないけど……。でも、これからも描き続ける。

國保、去っていく。夢解きは舞台からそれを見守る。

舞台の幕は、ゆっくりと閉じていく。

〈夢を解くひと〉——了——

現代宇治拾遺物語

其ノ百六十五

夢を解くひと

参考文献

伊東玉美（2017）『ビギナーズクラシックス 日本の古典 宇治拾遺物語』角川ソフィア文庫

趙 智英（2020）『宇治拾遺物語 夢説話の研究』金壽堂出版

渡辺 恒夫（2016）『夢の現象学：入門』講談社

酒井 紀美（2021）『夢語り・夢解きの中世』吉川弘文館

稲田 浩二・稲田 和子（2010）『日本昔話ハンドブック 新版』三省堂

ほか、著者に影響を与えたエンターテインメント・サイエンスの数々。

上演記録

Thursday #3 『夢を解くひと』

2022年12月17日、18日 阿佐ヶ谷アートスペースプロット

作

木口人

演出

三条燕

出演

國保 守役

篠部 寛

三上 咲都美 役

梅垣 千賀

曳野 槇太朗 役

吉原 興宙

蔵津 織人 役

七草 歩

童子 大夢 役

やつはー

夢解きの女 役

勝股 夕夏

スタッフ

舞台監督

中村 泰盛

舞台監督補佐

若月 涼

照明

橋本 陽平(さんじかい)

音響

雛形 奎祐

舞台美術

伊藤 卓海

小道具

大沢 泰生

衣装

西川 菜月

安田 ゆり

宣伝美術

村松 秀紀

演出助手

橋本 陽平(さんじかい)

制作

吉岡 明日香

つきじ

映像作成

ムラタ

夢を解くひと

2022年12月17日発行

著者 © 木口人

本戯曲の無断配布等を禁じます。上演許可等のお問い合わせは、劇団Thursday公式ホームページ (<https://thursdaydrama.yu-nagi.com/>) よりお願いいたします。

